

牧野富太郎書簡（川崎正悦コレクション） から見える兵庫県との関わり



自然・環境再生研究部 コミュニケーション・デザイン研究グループ

鈴木 武

牧野富太郎(1862-1957)は高知県出身で、1500種以上の植物に学名をつけた植物分類学者です。2023年春のNHK朝ドラのモデルです。

1917(大正6)年、資金難になった牧野は、神戸市の池長孟(1891-1955)から援助を受け、兵庫区の会下山小公園の「池長植物研究所」に長らく滞在しました。兵庫県の各地でも植物採集を行い、在野の研究者とも交流を深めました。私立灘高校教諭の川崎正悦(1893-1978)は牧野との親交が長く、植物採集に同行しました。

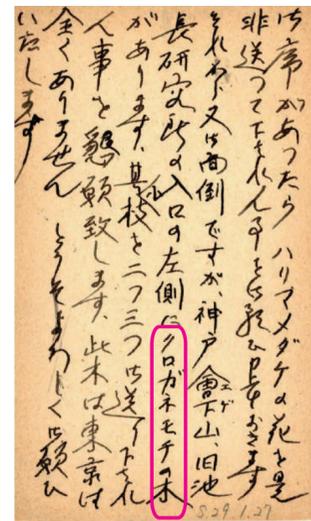
川崎のもとには、牧野から送られてきた書簡は1922(大正11)年から1956(昭和31)年に及び、ハガキ 273枚、封書92通が残っており、1991(平成3)に博物館準備室に寄贈されました。その資料を精査してわかった興味深いことをいくつかあげます。



池長植物研究所跡
(神戸市兵庫区会下山小公園)



ノジグク群生地での川崎正悦と牧野富太郎
(姫路市大塩、昭和5年。「志のび草」より)



1954年1月27日の葉書
この年は100通以上の葉書を送っている

① 会下山小公園にあるクロガネモチ

牧野は1954(昭和29)年、池長植物研究所入口にあるクロガネモチの枝を送るよう川崎に依頼しています。それらしい木が現存していることがわかりました。



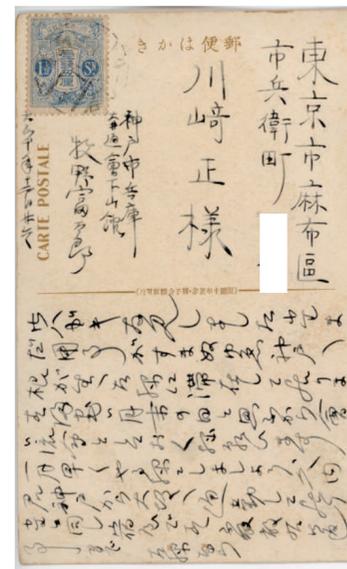
会下山小公園のクロガネモチ



この左奥が植物研究所跡

② 舞子介類館を来訪

1921(大正10)年、牧野は兵庫区会下山に長く滞在しました。11月8日には、日本初の貝類館「舞子介類館」を訪れて、神戸博物学会の設立の打ち合わせもしていました。



1921年12月20日の葉書
川崎は当時、東京在住



舞子介類館10周年記念の絵葉書
11月の来訪の際に入手したと思われる



舞子介類館館長
矢倉和三郎
(1875-1944)
提供：西宮市貝類館

8日 曇風強し。神戸(兵庫県神戸市)滞
在、研究所(神戸市兵庫区)登館。親和高女学校教
員中島信治氏来館、午後四時過横山賀前氏来
館、相携へて須磨(神戸市須磨区)ニ行キ夜ニ入ル。
池中ノフサモ採集、須磨寺を訪ヒ更ニ舞子(神戸
市垂水区)ニ貝館ヲ尋ね館主ト談話、深更帰宅ス。
「牧野富太郎植物採集行動録」
1921年11月8日